

園児からの「この虫なあに？」、8割はこれで解消

自然・環境再生研究部 コミュニケーションデザイン研究グループ 八木 剛



幼児期は、生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期です。身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持ち、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われます。

虫（昆虫などの小動物）は、身近に存在し、適度な大きさで、動くという特性から、小さな子どもの興味関心を強く誘発し、幼稚園等では、園児が日常的にいろいろな虫をみつけては、先生に披露します。

この虫なあに？に答えてやりたいが、図鑑やネットで

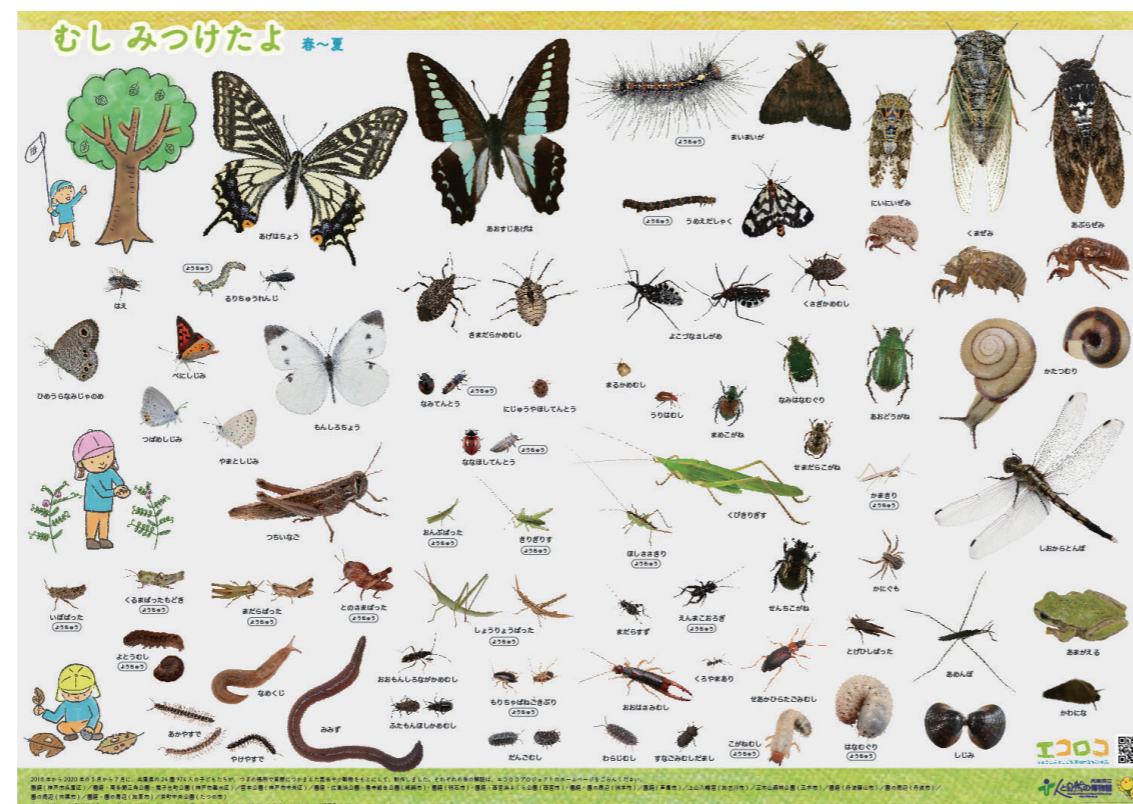
調べても名前がわからず、そこで話が終わってしまうことが残念です。これは先生の声。名前さえわかれば、食べ物などの虫の性質は簡単に調べることができ、安全面の不安も払拭できます。

そこで、園児が実際につかまえた虫の8割を収録したポスターを制作、配布しました。このポスターをきっかけに、園児どうし、園児と先生の会話がいっそう豊かになれば、うれしいですね。

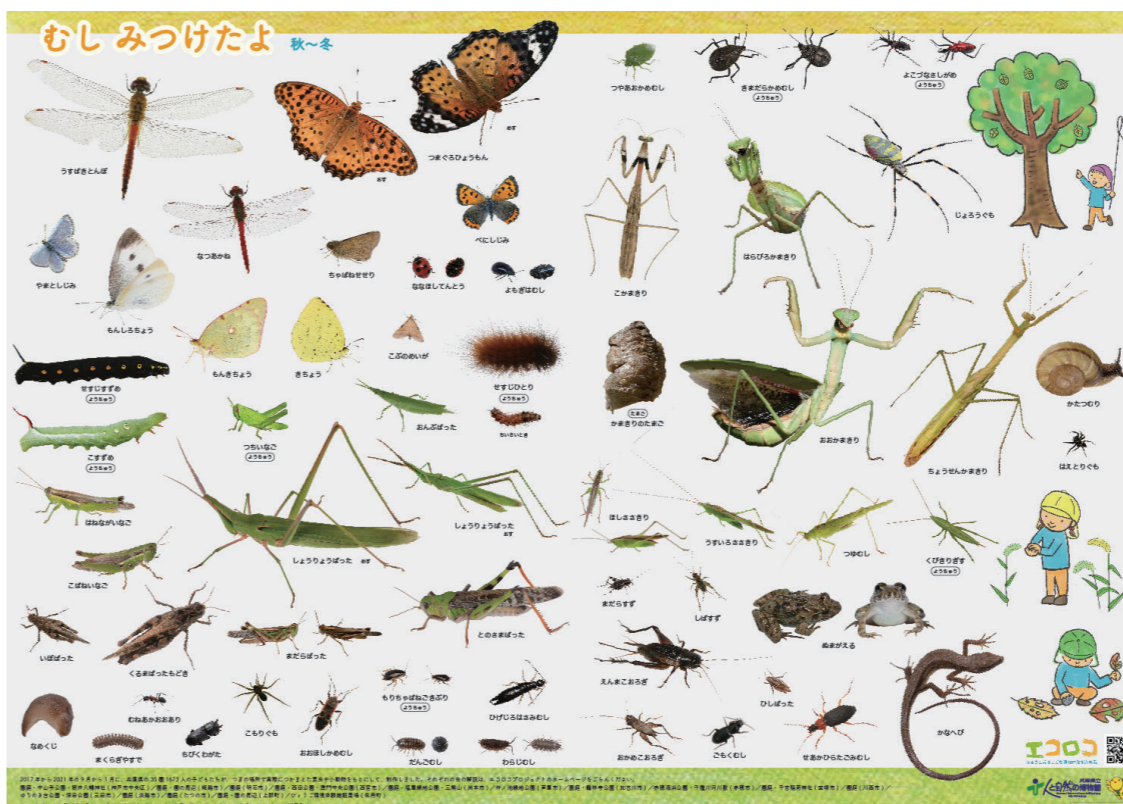
ポスターのPDF ファイルは、「エコロコプロジェクト」（ふるさと兵庫子ども環境体験推進事業）のサイトから取得できます。ご利用ください。



2017年10月から2021年1月にかけて、兵庫県内の幼稚園・保育所、述べ59園、2,647人の子どもたちと一っしょに、虫とりをしました。園児たちは、347種類、3,926匹の虫をつかまえました。



A3判2枚組の「むし みつけたよ」ポスター。複数園の園児がつかまえた虫の中から、98種を収録しました。種数としては30%足らずですが、個体数ではほぼ80%をカバーしています。制作にあたっては、幼稚園等の先生方から多くのアドバイスをいただきました。



「むし みつけたよ」ポスターは、2021年春、兵庫県内すべての幼稚園・保育所・認定こども園へ、配布されました。日々の保育、教育に活用されています。